



## Cisco UCS CPA ワークフロー

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [ビッグデータのワークフロー \(1 ページ\)](#)
- [ビッグデータのサービス リクエストについて \(5 ページ\)](#)

### ビッグデータのワークフロー

Cisco UCS Director Express for Big Data は、[UCS CPA] フォルダーの [Orchestration] の下で一連のワークフローを定義します。

- UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF—このワークフローは、複数の Hadoop アカウントを使用すると発生します。
- UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF—このワークフローは、複数の UCSM Splunk アカウントを使用すると発生します。
- UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF—このワークフローは、あらゆる UCSM アカウントに対して発生します。
- UCS CPA Node Bera Metal—このワークフローは、クラスタのノードごとに発生します。
- UCS CPA Node Bare Metal with Storage Profile WF—このワークフローは、OS を展開するために SAS RAID コントローラの下に SSD Server Boot Drive を有する Cisco UCS S3260 ストレージサーバを使用するときに発生します。

(注) ディスクグループポリシーは、Cisco UCS Manager 3.2 またはそれ以降のバージョンに対してのみ、ワークフローを使用して Cisco UCS Director Express for Big Data で自動的に作成されます。

表 1: ディスクグループポリシー

サーバの詳細	ディスクグループポリシーは必須か?	ディスクポリシー割り当ての詳細
PCH コントローラと SSD ディスクを含む Data ドライブスロットを持つサーバ	いいえ (No)	該当なし
専用のブートドライブスロット (20x) を含む SAS コントローラと SSD ディスクを含む Data ドライブスロット	Yes	OS をブートし、SSD スロット番号を RAID 0 または RAID 1 に手動で割り当てる場合には、BD_V1_SSM_RAID0 または BD_V1_SSM_RAID1 が作成されます。現在、専用のブートドライブスロット 201 と 202 は、Cisco UCS S3260 ストレージサーバでのみサポートされています。
専用のブートドライブスロット (20x) を含み、SSD ディスクを含む SAS コントローラと、SSD ディスクを含まない Data ドライブスロット	Yes	OS をブートし、SSD スロット番号を RAID 0 または RAID 1 に自動で割り当てる場合には、Boot_SSD_RAID0 または Boot_SSD_RAID1 が作成されます。

サーバの詳細	ディスク グループ ポリシーは必須か?	ディスク ポリシー割り当ての詳細
HDD のみの SAS コントローラと Data ドライブのスロット	Yes	OS をブートし、HDD スロット番号を RAID 0 または RAID 1 に自動で割り当てる場合には、Boot_HDD_RAID0 または Boot_HDD_RAID1 が作成されます。  (注) HDDに加えて Data ドライブスロットで SSD ディスクを利用できる場合には、Boot_HDD_RAID0 または Boot_HDD_RAID1 を作成できます。
SSD と HDD ディスクを含む SAS コントローラとデータ ドライブ スロット	Yes	OS ブート時にスロット番号を手動で RAID 1 に割り当てる場合は、BD_V1_ANYM_RAID1 が作成されます。



(注) Cisco UCS 326x ストレージサーバでは、ある場合、UCS CPA Node Bare Metal with Storage プロファイルがタイムアウトして、**アソシエーション完了の待機** が失敗する可能性があります。このような場合、アソシエーションプロセスは、**ucs サービス プロファイルをテンプレートにバインド**が、FSMの90%のポストを経過した時点で、ストレージシステムの初期化エラーですでに失敗している可能性があります。Cisco UCS サーバの再確認応答を実行し、ベアメタルワークフローを再送信する必要があります。

- UCS CPA Delete Node—このワークフローは、Hadoop クラスタからノードを削除すると発生します。
- UCS CPA Cloudera Add Live Node—このワークフローは、Cloudera のライブ ノードを追加すると発生します。
- UCS CPA MapR Add Live Node—このワークフローは、MapR のライブ ノードを追加すると発生します。

- UCS CPA Hortonworks Add Live Node—このワークフローは、Hortonworks のライブ ノードを追加すると発生します。
- UCS CPA Add New Disks—このワークフローは、新しいディスクを追加すると発生します。
- UCS CPA Configure NFS Clients and Servers—このワークフローは、NFS クライアントとサーバを設定すると発生します。
- UCS CPA Enable HTTPS Modify Protocol and Port Number for Hadoop—このワークフローは、Hadoop のプロトコルとポート番号を変更すると発生します。
- UCS CPA Enable HTTPS Modify Protocol and Port Number for Splunk—このワークフローは、Splunk のプロトコルとポート番号を変更すると発生します。
- UCS CPA Migrate Splunk Cluster to Multi-Site—このワークフローは、既存の Splunk クラスタをマルチサイトの Splunk クラスタに移行する場合に発生します。
- UCS CPA Remove Disks—このワークフローは、ディスクを削除すると発生します。
- UCS CPA Splunk Upgrade—このワークフローは、Splunk クラスタをアップグレードすると発生します。
- UCS CPA Instant Hadoop Cluster WF—このワークフローは、ノードカウントおよび IP アドレス範囲、メモリ、インターフェイス数など他の必須入力に基づいてインスタント Hadoop クラスタを作成すると発生します。Cisco UCS Director Express for Big Data は、インスタント Hadoop クラスタの作成に必要な 1 つの UCS サービス プロファイルおよび Hadoop クラスタ プロファイルテンプレートをバックエンドで自動で作成します。これによって、手動でサービス プロファイルおよびクラスタ プロファイルを作成する手間が省けます。
- UCS CPA Customized Hadoop Cluster WF—このワークフローは、特定の UCS サービス プロファイルを使用すると発生します。Hadoop クラスタで作成するノード数を指定した、Hadoop クラスタ プロファイルのテンプレートです。
- UCS CPA Disable High Availability WF—このワークフローは、ハイ アベイラビリティを無効にするときに発生します。
- UCS CPA Enable High Availability WF—このワークフローは、ハイ アベイラビリティを有効にするときに発生します。
- UCS CPA Shutdown Big Data Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタをシャットダウンするときに発生します。
- UCS CPA Start Big Data Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタの電源を入れるときに発生します。
- UCS CPA Splunk Add Live Archival Node—このワークフローは、Splunk 用の Live Archival Node を追加するときに発生します。
- UCS CPA Upgrade Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタをアップグレードするときに発生します。

- UCS CPA Cloudera Add New Service WF—このワークフローは、Cloudera の新しいサービスを追加するときに発生します。
- UCS CPA MapR Add New Service WF—このワークフローは、MapR の新しいサービスを追加するときに発生します。
- UCS CPA Hortonworks Add New Service WF—このワークフローは、Hortonworks の新しいサービスを追加するときに発生します。

## ビッグデータのサービス リクエストについて

Cisco UCS Director Express for Big Data は、Hadoop クラスタを全体的に導入するため、Cisco UCS Director サービス リクエストとワークフローのオーケストレーションを活用します。各サービス リクエストは、クラスタ作成時に作成されるプロビジョニング ワークフローです。

たとえば、4 ノード Hadoop クラスタでは UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster W/F が 1 つ、Single UCSM Server Configuration W/F が 1 つ、UCS CPA Node Bare Metal W/F が 4 つ作成されます。ワークフローが完了すると、クラスタはその UCSM アカウントの **[Solutions] > [Big Data] > [Accounts]** に作成されます。

一連のサービス リクエストはクラスタ作成時に **[Organizations] > [Service Requests]** の下に作成されます。

- UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF—このワークフローは、複数の Hadoop アカウントを使用すると発生します。また、インスタント、またはカスタマイズされた Hadoop クラスタを作成するときに適用されます。
- UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF—このワークフローは、複数の UCSM Splunk アカウントを使用すると発生します。また、インスタント、またはカスタマイズされた Splunk クラスタを作成するときに適用されます。
- UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF—このワークフローは、あらゆる UCSM アカウントに対して発生します。
- UCS CPA Node Bare Metal—このワークフローは、クラスタのノードごとに発生します。

次のサービス リクエストは Bare Metal ノードまたはライブ ノードをクラスタに追加するときに作成されます。

- UCS CPA Cloudera Add Live Node—このワークフローは、Cloudera のライブ ノードを追加すると発生します。
- UCS CPA MapR Add Live Node—このワークフローは、MapR のライブ ノードを追加すると発生します。
- UCS CPA Hortonworks Add Live Node—このワークフローは、Hortonworks のライブ ノードを追加すると発生します。

- UCS CPA BigInsights Add Live Node—このワークフローは、BigInsights のライブ ノードを追加すると発生します。

次のサービス フローは下記で説明されているように作成されます。

- UCS CPA Disable High Availability WF—このワークフローは、ハイ アベイラビリティを無効にするときに発生します。
- UCS CPA Enable High Availability WF—このワークフローは、ハイ アベイラビリティを有効にするときに発生します。
- UCS CPA Shutdown Big Data Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタをシャットダウンするときに発生します。
- UCS CPA Start Big Data Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタの電源を入れるときに発生します。
- UCS CPA Upgrade Cluster WF—このワークフローは、Hadoop クラスタをアップグレードするときに発生します。
- UCS CPA Cloudera Add New Service WF—このワークフローは、Cloudera の新しいサービスを追加するときに発生します。
- UCS CPA Hortonworks Add New Service WF—このワークフローは、Hortonworks の新しいサービスを追加するときに発生します。
- UCS CPA MapR Add New Service WF—このワークフローは、MapR の新しいサービスを追加するときに発生します。
- UCS CPA BigInsights Add New Service WF—このワークフローは、BigInsights の新しいサービスを追加するときに発生します。

サービス リクエストおよびワークフローの詳細については、次のガイドを参照してください。

- 『Cisco UCS Director Self-Service Portal Guide』
- 『Cisco UCS Director Orchestration Guide (Cisco UCS Director オーケストレーション ガイド)』

## ビッグデータのサービス リクエストのモニタリング

始める前に

クラスタ導入テンプレートを作成してカスタマイズし、サービス リクエストをモニタします。

ステップ 1 [Organizations] > [Service Requests] の順に選択します。

ステップ 2 [サービス リクエスト (Service Requests)] をクリックします。

ステップ 3 モニタするサービス リクエストを選択して [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。

次のリクエスト ステータスのいずれかが表示されます。

- 次の手順を完了します。
- 進行中
- キャンセル済
- 失敗

## UCS CPA ワークフロー タスクの表示

[サービス リクエストのステータス (Service Request Status)] 画面で、次の情報が表示されます。

- ワークフローのステータス
- Log
- 作成されたオブジェクトと変更されたオブジェクト
- 入出力



(注) 失敗したサービス リクエストについては入力の変更のみ可能です。

**ステップ 1** [(組織 Organizations)] > [サービス リクエスト (Service Requests)] の順に選択します。

特定のグループに追加されているユーザ固有のサービス リクエストのリストを表示できます。たとえば、[すべてのユーザ グループ (All User Groups)] です。

**ステップ 2** 表示する [サービス リクエスト ID (Service Request ID)] を選択します。

**ステップ 3** [サービス リクエストのステータス (Service Request Status)] 画面を開く [サービス リクエスト ID (Service Request ID)] をダブルクリックします。(サービス リクエスト ID をそれに関連付けられたワークフロー名で選択することもできます。[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。たとえば、[UCS CPA Node BareMetal (UCS CPA Node BareMetal)] ワークフローを選択し、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。)

[サービス リクエストのステータス (Service Request Status)] 画面で、ワークフローの次のタスクを表示できます。

UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF/UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF	UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF	UCS CPA ノードのベア メタル
	<p>次のタスクは [単一 UCSM サーバ構成 WF (Single UCSM Server Configuration WF)] に関連付けられています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [管理者が開始 (Initiated by Admin)]</li> <li>2. [UCS サービスプロファイル テンプレートを作成する (Create UCS Service Profile Template)]</li> <li>3. [メンテナンス ポリシー UCS SP テンプレートの変更 (Change Maintenance Policy UCS SP Template)]</li> <li>4. マルチ ベア メタル OS インストール WF</li> <li>5. UCS ディスク グループ ポリシーの作成</li> <li>6. UCS ディスク グループ ポリシーの作成</li> <li>7. UCS ディスク グループ ポリシーの作成</li> <li>8. UCS ディスク グループ ポリシーの作成</li> <li>9. マルチ ベア メタル WF モニタ</li> <li>10. [UCS SP テンプレートのメンテナンス ポリシーの変更 (Change Maintenance Policy for UCS SP Template)]</li> <li>11. 次の手順を完了します。</li> </ol>	

UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF/UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF	UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF	UCS CPA ノードのベアメタル
<p>次のタスクは [UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF (UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF)] および [UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF (UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF)] に関連付けられています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[管理者が開始 (Initiated by Admin)]</li> <li>[Multi-UCSM Hadoop クラスタプロファイル/Multi-UCSM Splunk クラスタプロファイル (Multi-UCSM Hadoop Cluster profile/Multi-UCSM Splunk Cluster profile)]</li> <li>[ビッグデータクラスタ環境のセットアップ (Setup Big Data Cluster Env)]</li> <li>[ユーザ (コンピューティング) の承認が必要 (User (Compute) Approval Required)]</li> <li>[ユーザ (OS) の承認が必要 (User (OS) Approval Required)]</li> <li>[Multi-UCSM Configuration WF (Multi-UCSM Configuration WF)]</li> <li>マルチベアメタル WF モニタ</li> <li>[コマンド実行の同期 (Synchronized Command Execution)]</li> <li>[ユーザ (Hadoop) の承認が必要 (User (Hadoop) Approval Required)]</li> <li>[カスタム SSH コマンド (Custom SSH Command)]</li> </ol>		<p>次のタスクは [UCS CPA ノードベアメタル (UCS CPA Node BareMetal)] に関連付けられています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[管理者が開始 (Initiated by Admin)]</li> <li>[ワークフロー優先度(高) の変更 (Modify Workflow Priority (High))]</li> <li>ベアメタル SR ID を割り当てる</li> <li>テンプレートからのサービスプロファイルの作成</li> <li>[テンプレートからの UCS サービスプロファイルのバインド解除 (Unbind UCS Service Profile from Template)]</li> <li>[UCS サービスプロファイルブートポリシーの変更 (Modify UCS Service Profile Boot Policy)]</li> <li>Add VLAN to Service Profile</li> <li>[UCS サービスプロファイルの関連付け (Associate UCS Service Profile)]</li> <li>ServerIdentity を指定する</li> <li>BMA 選択による PXE ブート</li> <li>[RAID コマンドの設定 (Setup RAID Commands)]</li> <li>[UCS ブレードリセットアクション (UCS Blade Reset Action)]</li> <li>PXE ブート待機中</li> <li>[RAID 設定のモニタ (Monitor RAID Configuration)]</li> </ol>

UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF/UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF	UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF	UCS CPA ノードのベア メタル
<p>11. [シェルスクリプトステータスのモニタ (Monitor Shell Script Status)]</p> <p>12. [Hadoop クラスタのプロビジョニング/Splunk クラスタのプロビジョニング (Provision Hadoop Cluster/Provision Splunk Cluster)]</p> <p>13. SSH コマンド</p> <p>14. [シェルスクリプトステータスのモニタ (Monitor Shell Script Status)]</p> <p>15. Hadoop アカウント/編集 Splunk アカウントを編集する</p> <p>16. グループにビッグデータのアカウントを指定する</p> <p>17. [カスタム SSH コマンド (Custom SSH Command)]</p> <p>18. 完了</p>		<p>15. カスタム アーカイブ PXE ブート要求</p> <p>16. [UCS ブレード電源オフアクション (UCS Blade Power OFF Action)]</p> <p>17. BMA 選択による PXE ブート</p> <p>18. [RAID コマンドの設定 (Setup RAID Commands)]</p> <p>19. SP の完全アソシエーションのカスタム待機</p> <p>20. [UCS ブレードリセットアクション (UCS Blade Reset Action)]</p> <p>21. PXE ブート待機中</p> <p>22. [UCS サービスプロファイルブート ポリシーの変更 (Modify UCS Service Profile Boot Policy)]</p> <p>23. サービスプロファイル vNIC からの VLAN の削除</p> <p>24. [UCS サービスプロファイルのテンプレートへのバインド (Bind UCS Service Profile to Template)]</p> <p>25. [完全な関連付けの待機 (Wait for complete Association)]</p> <p>26. [UCS ブレードリセットアクション (UCS Blade Reset Action)]</p> <p>27. [IP ステータスの割り当て (Assign IP Status)]</p> <p>28. [カスタム SSH コマンド (Custom SSH Command)]</p>

UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF/UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF	UCS CPA Single UCSM Server Configuration WF	UCS CPA ノードのベア メタル
		<p>29. [シェルスクリプト ステータスのモニタ (Monitor Shell Script Status)]</p> <p>30. [Linux のシェル スクリプト 実行 (Linux Shell Script Execution)]</p> <p>31. [Linux のシェル スクリプト 実行 (Linux Shell Script Execution)]</p> <p>32. [UCS ブレード電源オフアクション (UCS Blade Power OFF Action)]</p> <p>33. [UCS ブレード電源オンアクション (UCS Blade Power ON Action)]</p> <p>34. [コマンド実行の同期 (Synchronized Command Execution)]</p> <p>35. グループへの UCS サーバの割り当て (Assign UCS Server to Group)</p> <p>36. グループへのサービス プロファイルの指定</p> <p>37. 次の手順を完了します。</p>

ステップ 4 [Close] をクリックします。

## ワークフローのカスタマイズによる Hadoop または Splunk クラスタの導入

次の UCS CPA ワークフローをカスタマイズして、Hadoop または Splunk クラスタの導入に使用できます。Cisco UCS Director Express for Big Data Bare Metal Agent のクラスタ環境に必要なインストール パッケージ (RPM) を追加できます。

- UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF の名称変更

- UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF の名称変更
- Single UCSM Server Configuration WF の名称変更
- UCS CPA ノード ベア メタルの名称変更

## ワークフローのカスタマイズによる Hadoop または Splunk クラスターの導入

### 始める前に

ワークフロー オーケストレーションの詳細については、『*Cisco UCS Director Orchestration Guide*』を参照してください。

- 複製された Single UCSM Server Configuration WF で使用する UCS CPA Node ベア メタル ワークフローをカスタマイズします。
- UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF または UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF で使用する Single UCSM Server Configuration WF をカスタマイズします。

- 
- ステップ 1 [Orchestration] を選択します。
- ステップ 2 [UCS CPA] フォルダを [Workflows] からクリックします。
- ステップ 3 [Workflow Designer] でカスタマイズするワークフローをダブルクリックします。[UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF] をダブルクリックします。
- ステップ 4 [Muti-UCSM Configuration WF] タスクを [Workflow Designer] でダブルクリックします。
- ステップ 5 [Next] を [Workflow Task Basic Information] ページでクリックします。
- ステップ 6 [User Input Mappings to Task Input Attributes] ページで、ワークフローの入力フィールドにマッピングする属性を選択するか、次のステップで値を指定します。必要に応じて、[Map to User Input] チェックボックスをオンにしてユーザ入力を行います。
- ステップ 7 [Next] を [User Input Mappings to Task Input Attributes] ページでクリックします。
- ステップ 8 ワークフローの入力にマッピングされないタスク値を入力します。たとえば、[Workflow Name] フィールドに複製された Single UCSM Server Configuration WF の名前を入力し
- ステップ 9 [Revalidate] をクリックして、タスク入力値を再検証します。
- ステップ 10 [Next] をクリックします。
- ステップ 11 [User Output mappings to Task Output Attributes] ページで、ワークフローの出力フィールドにマッピングする属性を選択します。
- ステップ 12 [Map to User Output] チェックボックスをオンにして、[User Output] ドロップダウン リストから値を選択します。
- ステップ 13 [送信 (Submit) ] をクリックします。
-

## ユーザグループへのビッグデータ アカウントの割り当て

- ステップ 1 **[Orchestration]** を選択し、**[Workflows]** をクリックします。
- ステップ 2 **[Add Workflow]** をクリックします。
- ステップ 3 **[Add Workflow Details]** ページで、ワークフロー名を入力し、フォルダを選択します。**[Next]** をクリックします。
- ステップ 4 **[Workflow Task Basic Information]** ページで必要な詳細を入力して **[Next]** をクリックします。
- ステップ 5 **[User Input Mappings to Task Input Attributes]** ページで、ワークフローの入力フィールドにマッピングする属性を選択するか、次のステップで値を指定します。必要に応じて、**[Map to User Input]** チェックボックスをオンにし、ユーザ入力を行います。
- ステップ 6 **[User Input Mappings to Task Input Attributes]** ページで、ビッグデータ アカウントのタイプと、ビッグデータ アカウントを選択します。
- ステップ 7 **[Assign Users]** チェックボックスをオンにして、**[Submit]** をクリックします。**[Allow resource assignment to users]** オプションを **[Users Groups]** ページで有効にしていた場合には、ビッグデータ アカウントは指定されたユーザに割り当てられます。**[Assign Users]** チェックボックスをオンにしていなかった場合には、ビッグデータ アカウントは指定されたグループに割り当てられます。

## ビッグデータ アカウントの割り当てを解除する

始める前に

- ステップ 1 **[Orchestration]** を選択し、**[Workflows]** をクリックします。
- ステップ 2 **[Add Workflow]** をクリックします。
- ステップ 3 **[Add Workflow Details]** ページで、ワークフロー名を入力し、フォルダを選択します。**[Next]** をクリックします。
- ステップ 4 **[Workflow Task Basic Information]** ページで必要な詳細を入力して **[Next]** をクリックします。
- ステップ 5 **[User Input Mappings to Task Input Attributes]** ページで、ワークフローの入力フィールドにマッピングする属性を選択するか、次のステップで値を指定します。必要に応じて、**[Map to User Input]** チェックボックスをオンにし、ユーザ入力を行います。
- ステップ 6 **[User Input Mappings to Task Input Attributes]** ページで、ビッグデータ アカウントのタイプと、ビッグデータ アカウントを選択します。
- ステップ 7 **[Unassign Users]** チェックボックスをオンにして、**[Submit]** をクリックします。ビッグデータ アカウントの割り当てはグループから解除されます。

## UCS CPA ワークフローの複製

ベアメタルワークフローを通じてクラスタ導入をカスタマイズするには、UCS CPA フォルダの次のワークフローを以下の手順で複製します:

- UCS CPA Node Bare Metal ワークフローを複製します。
- 複製された UCS CPA Node Bare Metal ワークフローを使用して、Single UCSM Server Configuration WF の名前を変更します。
- 複製された Single UCSM Server Configuration WF を使用して、UCS CPA Multi-UCSM Hadoop Cluster WF の名前を変更します。

ステップ 1 **[Orchestration]** を選択します。

ステップ 2 UCS CPA フォルダ (**Workflows** 内) をクリックして、複製するワークフローを選択します。

ステップ 3 **[Clone Workflow]** をクリックします。

ステップ 4 **[Workflow Details]** ページ (**[Clone Workflow]** ウィザード内) で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>[Workflow Name]</b> フィールド	ワークフローの一意の名前。
<b>[Version]</b> フィールド	複製しているワークフローの現在のバージョン。これは表示専用フィールドです。
<b>[Description]</b> フィールド	ワークフローの説明。
<b>[Workflow Context]</b> ドロップダウン リスト	ワークフローのコンテキストです。ワークフローオーケストレーションは次のオプションをサポートしています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Any]</b> — 任意のコンテキストでワークフローを使用できます。</li> <li>• <b>[Selected VM]</b> — 実行ワークフローを使用できるようにします。このオプションは、VM を選択した場合のみ選択できます。</li> <li>• ワークフローを複合タスクとして定義するには、<b>[Save As Compound Task]</b> チェックボックスをオンにします。</li> <li>• ワークフローを UCS CPA フォルダ以外の新しいフォルダに割り当てるには、<b>[Place in New Folder]</b> チェックボックスをオンにし、<b>[Folder Name]</b> フィールドにフォルダ名を入力します。</li> </ul>
<b>[Select Folder]</b> ドロップダウン リスト	フォルダを選択します。UCSCPA は、ビッグデータのデフォルトフォルダです。

名前	説明
[Notify status of execution to initiator User] チェックボックス	電子メールでユーザに通知するには、このチェックボックスをオンにし、 <b>[Additional User(s) to send Email Notification]</b> フィールドに適切な電子メールアドレスを入力します。

ステップ5 [Next] をクリックします。

ステップ6 [Workflow User Inputs] ページ (Clone Workflow ウィザード) で、次のフィールドに値を入力します:

名前	説明
[Associate to Activity] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、既存のワークフローのユーザ入力を選択されたアクティビティのユーザ入力によって上書きされます。
[Activity] ドロップダウン リスト	アクティビティを選択します。選択されたアクティビティに基づいてユーザ入力テーブルが更新されます。
[Workflow User Inputs] テーブル	<p>[Workflow User Inputs] ページで、次の手順を実行します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[+] アイコンをクリックして、ワークフロー入力プロパティを追加します。</li> <li>[Add Entry to] 画面で、次のフィールドに値を入力します: <ol style="list-style-type: none"> <li>[Input Label] フィールドにアクティビティワークフロー入力の名前を入力します。</li> <li>[Input Description] フィールドにアクティビティワークフロー入力の説明を入力します。 field.</li> <li>ワークフロー実行中に入力をオプションとして設定するには、[Optional] チェックボックスをオンにします。</li> <li>[Select] をクリックします。[Select] 画面で、[Input Type] をクリックします。</li> <li>[Submit] をクリックします。</li> </ol> </li> </ol>

ステップ7 [Next] をクリックします。

ステップ8 [Workflow User Outputs] ページ (Clone Workflow ウィザード) で、次の手順を実行します:

名前	説明
[Workflow User Outputs] テーブル	<p>[Workflow User Outputs] ページで、次の手順を実行します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[+]</b> アイコンをクリックして、ワークフロー出力プロパティを追加します。</li> <li>2. <b>[Add Entry to]</b> 画面で、次のフィールドに値を入力します: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[Output Label]</b> フィールドにアクティビティワークフロー出力の名前を入力します。</li> <li>2. <b>[Output Description]</b> フィールドにアクティビティワークフロー出力の説明を入力します。</li> <li>3. ワークフロー実行中に出力をオプションとして設定するには、<b>[Optional]</b> チェックボックスをオンにします。</li> <li>4. <b>[Select]</b> をクリックします。<b>[Select]</b> 画面で、<b>[Output Type]</b> をクリックします。</li> <li>5. <b>[Submit]</b> をクリックします。</li> </ol> </li> </ol>

ステップ 9 [送信 (Submit) ] をクリックします。